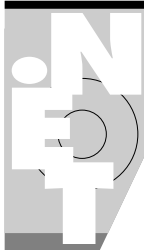


NEW

Visual Studio.NET/.NET Framework関連ツール新製品レビュー

PRODUCTS



InputMan for .NET

煩雑な入力支援機能の実装を少工数で実現する

精進湖計算機
立中 秀樹
TATENAKA, Hideki

問合せ先 グレープシティ株式会社

TEL 022-777-8211

URL <http://www.grapecity.com/>

FAX 022-777-8233

MAIL sales@grapecity.com

動作OS Windows 2000/XP

対応開発環境 Visual Studio.NET

価格 46,000円 (税別、ダウンロード販売価格)、58,000円 (税別、パッケージ販売価格)

はじめに

読者の中には職業でプログラミングをしている方が多いと思いますが、その中でもとくに受託開発などを行っている方たちは、この景気低迷で新規開発の案件が少なくなって困っているのではないかと思います。筆者も本業はフリーの開発者なので、ほんとに困っています。

筆者の周りでは新規開発が少なくなって、現状のシステムの改良などの案件がよくあがってきます。新規開発と違い改良や修正などでは、あまり多くの予算が取れないことがほとんどです。これらの案件に携わるフリーの開発者の対策としては、なるべく1本のアプリケーションに工数をかけずに、短時間

で開発することで本数を稼ぐしかありません。

もともと、このコーナーで紹介しているツールなどは、前述のような目的で使われるコンポーネントが多いと思います。今回紹介するのは、ある程度のユーザーインターフェイスを必要とするアプリケーションでは必須といってもよい、入力関係のコントロールをパッケージングしたVisual Basic (以下VB) ユーザーにはおなじみのコンポーネント集です。

製品概要と構成

今回紹介するInputMan for .NETは、入力作業の効率アップに威力を発揮する、テキスト、マスク、日付、数値、

カレンダー、電卓、およびコンテナといった7種類のコントロールから構成されたコンポーネント集です。

InputManという製品は、以前からVB用のActiveXコントロール集として発売されていました。InputManを使用したことのある方で、Visual Studio .NET (以下VS.NET) に移行しようとしている開発者にとっては“待っていました!”というところだと思います。

業務アプリケーションはもちろん、通常のアプリケーションでも入力作業をとまなうアプリケーションでは、入力する値に特定の制限を付ける必要があったり、あらかじめ指定された種類の文字しか入力できないようにする必要があったりします。たとえば、日付を入力するフィールドには“yyyy/mm/dd”形式で入力するという規則があった場合、そこには数字以外を入力されては困ります。さらに“2002/13/35”のような、ありえない日付を入力してしまった場合のチェックも必要になります。そしてこのチェックを行なうタイミングも問題になります。

本稿で使用した環境

O S | Windows XP Professional (SP1)

開発環境 | Visual Studio.NET Enterprise Developer

C P U | Athlon 750MHz

メモリー | 512MB

このような入力値のチェック処理をコーディングするだけでも相当の工数が発生しますが、加えて、IMEの制御やスピンドット機能の付加など、利便性を上げるためのコーディングにもかなりの工数がかかると言えます。

そのような場合、InputMan for .NETを使用すれば、前述のような工数はほとんど必要ありません。これらの処理や機能の多くは、プロパティの設定だけで構成することが可能です。

■以前のバージョンとの差異

InputMan for .NETは表1のコンポーネントで構成されています。以前のInputManと比べると、郵便番号コントロールと時刻コントロールがなくなっていることがわかります。

時刻の機能は日付コントロールに組み込まれました。.NETになってDate Time型を使用して日付と時刻を使用するようになったので、それにとまって変更されています。入力や表示はフォーマットの設定で時刻のみ/日付のみの利用も可能なので、機能が減ってしまったわけではありません。

また、以前のバージョンでは郵便番号専用のコントロールがあり、郵便番号辞書を利用した住所の自動検索機能などが組み込まれていましたが、今回この機能は含まれていません。今後のバージョンアップに期待したいところです。ただし、ちょっと面倒ですが、マスクコントロールに郵便番号を入力させて、別のテキストコントロール上でIMEの郵便番号辞書を利用した変換を用いれば同じような機能をもたせることは可能です。

この他、データバインドもADO.NETに対応し、DataSetを連結することが可能です。データベースのフィールドはデータの型により格納する値に制限が

表1: InputMan for .NETを構成するコンポーネント

呼称	コントロール名	説明
テキストコントロール	Edit	入力可能な文字種を制限できるテキスト入力コントロール
マスクコントロール	Mask	郵便番号などの入力に便利な書式設定機能をもったマスク入力コントロール
日付コントロール	Date	日付と時刻の入力に特化した高機能の日付入力コントロール
数値コントロール	Number	さまざまな数値入力を細かく制御できる数値入力コントロール
カレンダーコントロール	Calendar	スタイルを自由にカスタマイズできるカレンダー入力コントロール
電卓コントロール	Calculator	四則演算とメモリ機能を備えた電卓入力コントロール
コンテナコントロール	Container	子コントロールにキャプションと3D表示を追加するコンテナ型のコントロール

あります。たとえば、Int型のフィールドには文字列を格納することはできません。このような場合には、とくに入力値のチェックが重要になります。InputMan for .NETを使用すれば、入力制御や値のチェックなどをコントロール側で受けもってくれるので大変便利です。

今回はサンプルプログラムとして、Accessデータベースを使用して住所録の入力アプリケーションを作成してみます。

なお、InputMan for .NETのインストールは、他のグレースシティ社のコンポーネント同様にセットアッププログラムを実行して指示に従ってゆけばOKです。

■住所録データベースの作成

アプリケーションの作成を開始する前に、データベースを作成して住所録テーブルを作成します。今回はAccessのデータベースを使用するので、Accessで“USER.mdb”というファイルを作成し、そこにテーブルを作成します。

テーブルのフィールドは表2のような構成とします。IDフィールドを主キーに設定し、テキスト型のフィールドは

表2: テーブル「住所録」のフィールド構成

フィールド名	データ型
ID	オートナンバー
性別	テキスト
氏名	テキスト
シメイ	テキスト
電子メール名	テキスト
生年月日	日付/時刻
郵便番号	テキスト
都道府県	テキスト
市区町村	テキスト
住所	テキスト
備考	メモ

空文字の許可を“はい”に設定し、テーブル名は“住所録”として保存します。作成したファイルは、プロジェクトの作成後にプロジェクトと同じフォルダにコピーしておきます。

■コントロールの配置

それでは、VS.NETを起動して、新規プロジェクトを作成します。VS.NETの[ファイル]メニューから[新規作成] - [プロジェクト]を選択し、「プロジェクトの種類」は“Visual Basicプロジェクト”、「テンプレート」は“Windowsアプリケーション”を指定します。プロジェクト名は“InputManSample1”にします。